

Q 4 昔の核実験でできた放射性物質が今も残っているって本当？



はい、わずかですが
残っています。

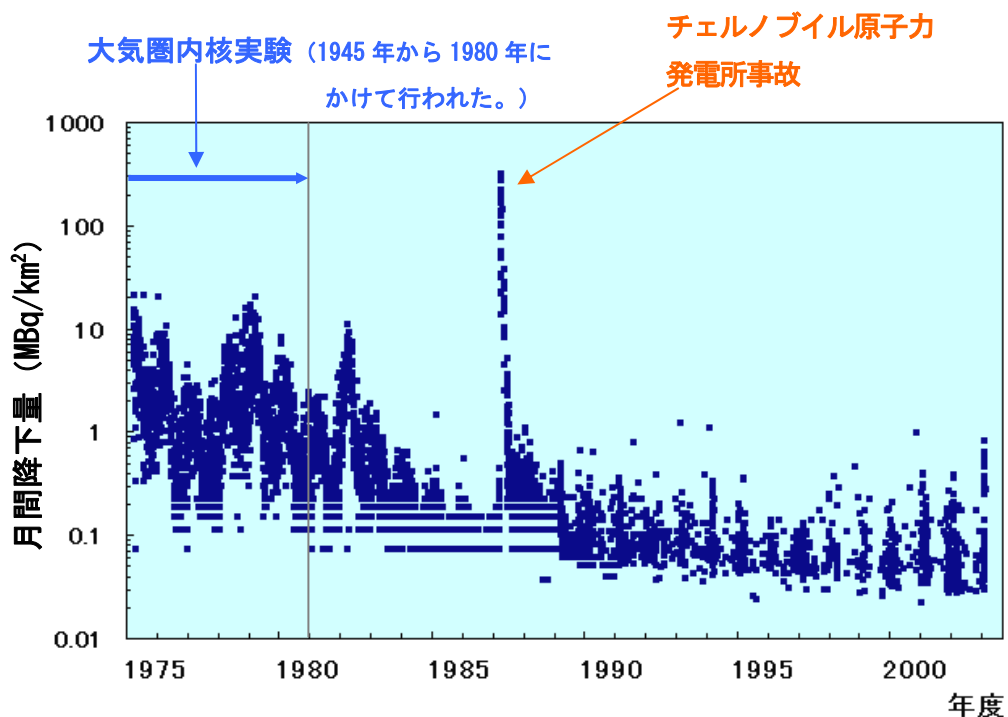


解説

1945年から1980年にかけて大気圏内で行われたウランやプルトニウムの核実験により、多くの人工放射性物質が生成されましたが、その中でも生成量が多く、半分の量になるのに約30年もかかるため、ストロンチウム90やセシウム137は現在でも残っています。

大気圏内核実験は1980年に終わりましたが、1986年の**チェルノブイル原子力発電所事故**で一時的にセシウム137の濃度が高くなりました。しかし、その後すぐにもとに戻りました。

1974年からの我が国における雨水・ちり中のセシウム137の経年変化を下の図に示します。



我が国における雨水・ちり中のセシウム137の経年変化



ストロンチウム 90 やセシウム 137
は私たちの体に影響しないの？

我々の身のまわりの放射線の線量に比べて、
ストロンチウム 90 やセシウム 137 からの線
量はわずかです。



解説

我が国においては、1人当たりもともと自然に存在する放射線から1年間に1.5 mSv^{*}、医療などの人工放射線から1年間に2.3 mSv（平均値）を受けています。ストロンチウム90 やセシウム137 などの放射性降下物からは、1年間でわずかに0.01 mSv です。

^{*}mSv（ミリシーベルト）：人への放射線の影響を示す単位です。

